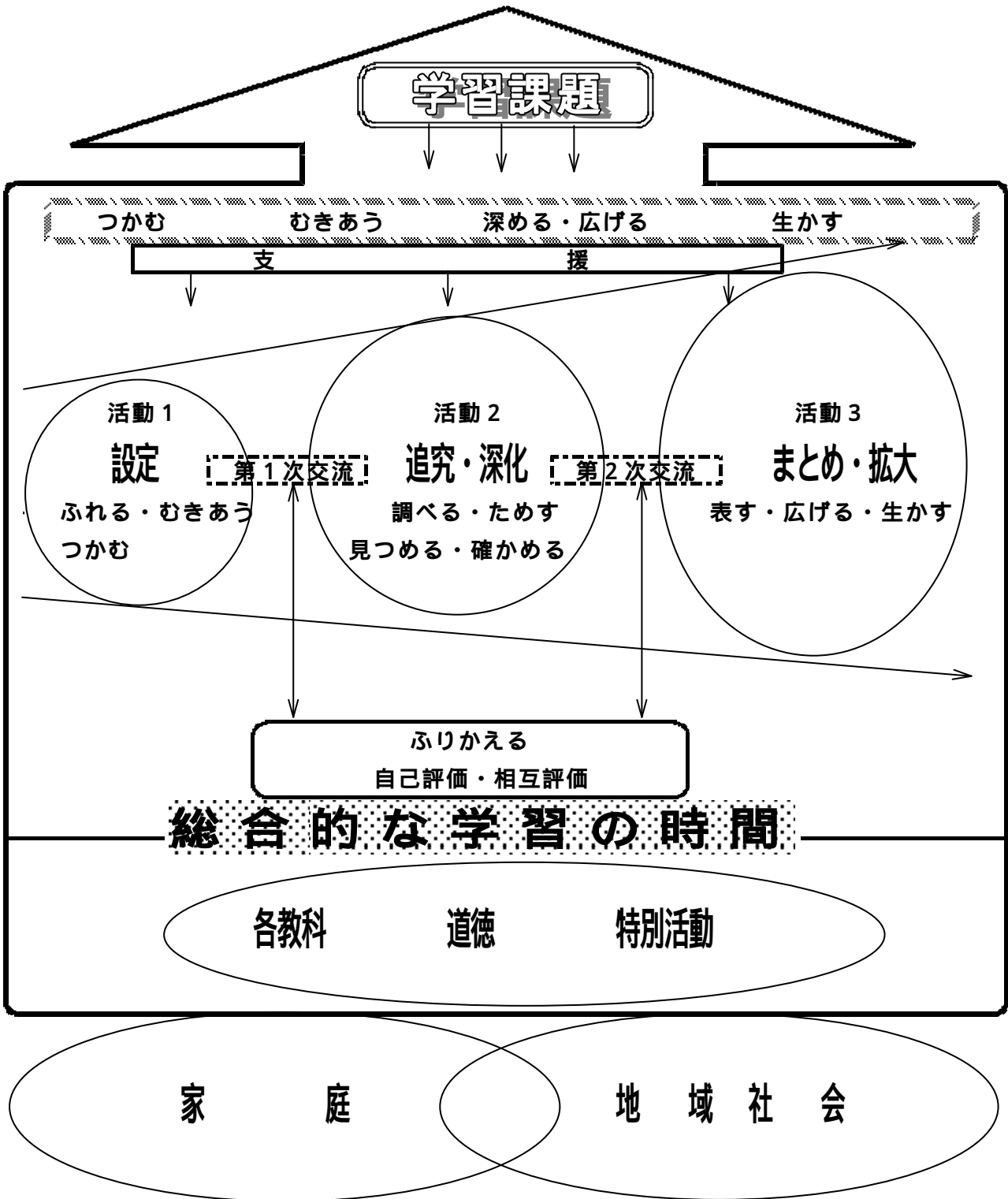


第2節 学習展開に工夫をこらした小学校における実践例

1 単元名 「環境調査隊が行く」

2 学習活動の見通し

研究主題 「豊かな感性とひびきあう心をめざして」-自らはたらきかけ、友と学ぶ-



3 単元で育てたい力と学年が求める子どもの育ちの見通し（第5学年）

学年の目標
集団として学び合いながら、学習や生活の課題を解決していく力の育成

単元で育てたい力
<p>【視点】</p> <p>活動の意欲……………身近な環境に意欲的にかかわろうとする力</p> <p>課題設定する力……………身近な環境について、自分なりの課題を見つける力</p> <p>課題を追究する力……………身近な環境について考え、自らの方法で社会や自然を見つめたり調べたりする力</p> <p>表現する力……………自分なりの考えや調べた結果を、周りの人に分かるように表現を工夫して伝える力</p> <p>生活に生かす力……………身近な環境について学んだことを、生活の中で実践する力</p>

「総合的な学習の時間」を支えるための取組	
1 学 期	<p>林間学習……………小集団の中での人とのかかわり合い</p> <p>日記での自己表現……………「その子らしさ」の理解</p> <p>クラス遊び……………集団としての意識付けと人とのかかわり合い</p> <p>積極的な発表の支援……………自分から発表できる意欲付け</p>
2 学 期	<p>グループ活動の充実……………学習や係活動における創造的な活動の支援</p> <p>授業でのルールの徹底……………発言の仕方や聞き方の指導</p> <p>学習活動の工夫・改善……………思考させる場や文章表現させる場の設定、調べ学習の仕方やまとめ方の指導</p>
3 学 期	<p>グループ学習の充実……………調べ学習を重視した課題の追究</p> <p style="text-align: center;">相手や目的を意識した表現の工夫</p>

4 単元の構想

研究主題 豊かな感性とひびきあう心をめざして - 自らはたらきかけ、友と学ぶ -

学年の目標 集団として学び合いながら、学習や生活の課題を解決していく力の育成

学習課題	「自分のまわりの環境について考えよう」		各教科等との関連
単元名	「環境調査隊が行く」 (全27時間)		
	学 習 活 動	具体的な手だてや留意点	
第1次 課題の 設定	自分のまわりの環境について考えよう ・ 暮らしの中での気づきを話し合う ・ 地域に出て、デジタルカメラで記録する ・ 見つけてきたことを分類、整理し、発表する (本時) ・ 追究したい自分のテーマを決める ・ 活動の計画を立てる ・ 活動内容と方法をまとめる	課題意識を引き出す支援 校区地図の利用 安全性の確保 話し合いの活性化 活動カードの活用 テーマの明確化 必要な情報の提示 発表を意識したまとめ	道徳 「緑の山に」(自然愛)
	学年交流会をしよう(第1次交流) ・ 活動内容や方法の発表 ・ 自分たちの活動計画の見直し	相手や目的を意識した発表の支援	国語 「おみやげ」 「宇宙人の宿題」 「みんなで考えよう - わたしたちの生きる地球 -」
	社会 「これからの工業と環境」 「環境を守る森林の働き」 「限りある地球と日本の国土」		
第2次 課題の 追究 深化	調査隊の活動を始めよう ・ 様々なアプローチの仕方ですべてを追究する ・ 調査したことや分かったことをまとめる	市役所や図書館での聞き取り インタビュー 新聞の切り抜き クリーン活動などの体験 酸性雨などの実験や調査	家庭科 「清潔な住まい」
	学年発表会をしよう(第2次交流) ・ 調査活動結果の相互交流 ・ 発表を聞いて、更に、課題を追究する	相手を意識した発表の支援 課題の意識化と深化	国語 「朝の会から」 「新聞をもとに」 「調査したことを」 特別活動 朝のスピーチ・ディベート
第3次 まとめ・ 拡大	調査隊の活動を振り返ろう ・ 自分が伝えたいこと分かったこと、思ったことを作文にする	伝えたいことを意識した表現活動の支援	国語 「毎日の暮らしをより楽しく」

内の数字は時間数

5 単元設定の理由

地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊などの環境問題を考えるとき、地球的規模の視点から考えることが必要です。現状をどう打開し、どう解決していけばよいのか、人間が英知を出し合い真剣に対策を考えなければならない時が来ています。これからの教育においても、環境について学習することは大変重要なことです。

5年生の子どもたちは、社会科で自動車の増加に伴う様々な社会問題や公害問題、被害を受けた人々の苦しみや解決に向けての努力などについて学習します。また、国語科では、環境問題に真正面から取り組んだ「一秒が一年をこわす」という教材により、「これ以上おごり高ぶるなら、人類は地球からしっぺ返しを受けるだろう。」という筆者の警鐘に対して、「本当にそうなのか」「私たちはこのままでいいのか」といった課題意識をもち、自分なりに考えることを学習します。

そこで、社会科や国語科等の教科学習で得た知識や情報、学び方、そこで深めた自らの考えや願いを基にして、身近な環境に目を向けさせることをねらって、この単元を設定してみました。

学習を展開するに当たっては、資料を集めたり、調べたり、考えたり、話し合ったりすることを通して、環境問題を自分自身の生活と結び付けて考え、環境とともに生きる自分の生活や生き方を見つめ直すことが大切です。そして、地域のよさに気付き、環境保全という視点で、自分はどのような生活を送り、実践的な行動がとれるかということについても深く考え、学んだことを地域に返すことができるような学習にしていきたいと考えます。

「総合的な学習の時間」における環境教育としては、教科の枠にこだわらず、地域環境の実態に即した学習や子どもたちの課題意識を全面に出した幅広い学習になるように学習課程を構成することが大切です。

6 本時のねらい

- ・自分たちのグループが地域の中で発見してきた環境問題を、みんなによく分かるように分類・整理し、発表することができる。
- ・他のグループの発表を聞いてよさを学び、今後の自分の追究したいテーマについて見通しをもつことができる。

7 本時の展開（次ページ参照）

8 本時の評価

- ・友だちと協力しまとめ方を工夫して、身近な環境問題についてみんなによく分かるように分類・整理、発表することができたか。
- ・分類・整理する活動や他のグループの発表のよさから学び、自分の追究するテーマを何にするのか見通しをもつことができたか。

7 本時の展開

過程	学習形態	主な学習活動	* 教師の支援 評価の観点	学習材・人材
つ か む む き あ う	個別	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">本時の学習の目当てを確かめよう</div>	* 目当てを確認し、今日の活動の見通しがもてるようにする。	オープンスペース
	グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">地域の中で発見してきた環境問題について、分類、整理し、発表しよう</div>	* 十分に活動できるようにオープンスペースを活用する。	
	グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">発見してきた環境問題について報告しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題をとらえた写真を出し合い、一人一人報告する。。 ・環境問題として何をとらえ、なぜそれにこだわりをもったのか出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 自分自身のこだわりから考えが出せるように助言する。 * 特異な環境問題を発見している子どもについては、その気づきが十分に生かせるように働きかける。 * 友だちの考えをしっかりと聞き、疑問に思う点については積極的に質問するよう助言し、地域の環境問題について意識を高めるようにする。 	デジタルカメラで撮った写真 活動カード 自然マップ 施設マップ
	グループ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">発見してき環境問題について分類、整理し、まとめよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・出し合った環境問題を種類ごとに分類、整理する。 ・分類、整理から気付いたことや分かったことを話し合いまとめる。 ・発表の準備をする。 <p>予想される環境問題とその分類</p> <p>【ごみ問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の中や道端のゴミ・空き缶・ペットボトルなど ・公園のゴミ箱からあふれ出ているゴミ ・たばこの吸い殻 ・新聞紙・雑誌 <p>【大気の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車から出される排気ガス ・工場から出る煙 ・酸性雨で色が変わった葉 <p>【水の汚れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れた水、油が浮いている水 ・濁っている川、ヘドロのようなものがある川 <p>【自然破壊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り開かれている竹やぶや田畑 <p>【騒音問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車や店から出る騒音 <p>【エネルギー問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つけっぱなしの電灯 	<ul style="list-style-type: none"> * ヒントコーナーに環境についての資料などを用意して、分類の方法等が分からないグループについてはいつでも調べることができるようにする。 * 話し合う活動を十分にとり、児童一人一人の気づきや考えを取り入れたまとめになるように助言する。 * まとめ方に手間取っているグループについては、まとめる方法や表現の仕方などについて具体的に助言する。 * 多様な表現方法に対応できるように、準備物の不足がないようにする。 * どういった視点で分類・整理しているか把握する。 <p style="text-align: center;"><u>地域の中で発見してきた環境問題についてみんなによく分かるように分類・整理することができる。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>活動に進んで参加することができる。</u></p>	ヒントコーナー 環境についての資料や本 はさみ、マジック、模造紙、画用紙、のり 色画用紙、段ボール、折り紙、セロテープ、ガムテープ、ホワイトボード、段ボール、色画用紙、絵の具、



深
一斉

め

る

広

め

る

生
個別
か
す

一斉

まとめたことを発表し、交流しよう

- ・どんな環境問題を発見し、どのように分類し、まとめたかを発表する。
- ・気が付いたことや思ったこと、疑問点などを交流し合う。

- * 伝えている相手によく分かるようにするため資料の提示場所や話し方、声の大きさ、話す速さにも注意するようにする。
- * 質問をしたり、思ったことを交流し合ったりする時間を十分にとり、各グループの気付きや思いが分かるようにし、更に、より新たな視点から身近な環境問題について見つめ直し、児童一人一人の課題づくりにつなげるようにする。

まとめ方を工夫し、みんなによく分かるように発表することができる。

【予想される気付きや思い】

道路や田畑にたくさんのごみや空き缶、ペットボトル等が捨ててあり驚いた。

川や用水の水をもっときれいにしたい。

私たちが協力して分別収集をもっとしていかなければならない。

新聞紙や雑誌類がたくさん捨ててあったが、リサイクルできるのではないか。

学校の近くにスーパーや商店街があり、人通りも多く、ごみが散らばっている。

大きな道路が多く、車がたくさん通っていて空気が汚い。

車の騒音が大きい。

スーパーや商店街で電灯がつきっぱなしになっていて、節約しなければならないと思う。

町のシンボルである竹やぶがなくなり、残念に思う。



本時の活動を振り返り、次時の目当てをもとう。

- ・自己評価カードを記入し活動を振り返るとともに、次時の学習の目当てをもつ。

- * 個別にかかわり、課題づくりへの意欲付けを行う。

何を自分の追究するテーマとするのか見通しをもつことができる。

自己評価カード

9 学習活動の工夫

(1) 体験的な学習や問題解決的な学習の重視

「総合的な学習の時間」では、体験的な学習や問題解決的な学習が基本となります。この単元の学習に先立ち、子どもたちは国語科の第5学年教材「一秒が一年をこわす」の学習で環境について意識を高め、社会科では公害や様々な環境問題について学習しています。また、各教科等で資料収集や調べ学習、まとめ方についても学んでいます。こうした教科での学習を共通基盤として、本単元では自分たちの身近な環境について目を向け、子どもたちの関心と生活体験を軸に課題を見い出し、自分なりの方法で追究、解決していく能力を育成します。更に、環境保全のために積極的に働きかける態度や行動力の育成をねらいとします。これらのねらいを達成するために、特に次のような段階を踏んだ体験的な学習や問題解決的な学習を重視します。

校区を歩き、見つめる活動
自分なりの課題をつかむ活動
課題に対する疑問や問題を深め、広げ、解決を図る活動
学んだことを生かす活動

▶ 校区を歩き、見つめる活動

まず、この単元のねらいを明確にした後、子どもたちはグループごとに実際に校区に出かけ、一人一人がこだわる身近な環境について探っていきます。これまで生活してきた場を「環境」という視点から見つめ直すことは、あまり経験のないことです。校区におけるごみの散乱や空気や水の汚れ、騒音などの身近な環境問題について五感を通してとらえ、課題意識を高めていきます。

また、ここではデジタルカメラを活用します。デジタルカメラは撮った写真がすぐに見られ、撮り直しも容易であり、また、発表のための資料として使う段階では、写真の大きさを自由に変えながら工夫して、パソコンの画面や印刷物、模造紙に張り付けることができるなどの多くの利点があります。これらの利点を生かして有効な活用が考えられます。

この単元では、思い思いに撮ってきた環境問題にかかわる写真を後で分類・整理する活動が重要になります。そこで子どもたちは地域に出て、身近な環境問題にかかわると思われる様子を相談しながらあまり迷わず思い切ってシャッターを押すようにし、のびのびと自分たちの気が付いた場面を記録します。この活動によって、子どもたちはただ校区を見て回るのではなく、一枚のレンズを通すことにより、環境問題を焦点化し鋭く迫っていくことができ、取材する実感や喜びを高め、積極的な活動を展開していきます。

▶ 自分なりの課題をつかむ活動

次に、子どもたちはこの身近な環境についての課題を設定し、追究活動を展開していきます。「総合的な学習の時間」では、追究する「課題」がとても重要であり、あくまでも子どもたちが主体的に見い出していくものです。「もっと知りたい」「調べてみたい」など子どもたちの思いや願いを十分に生かし、価値ある課題にしたいものです。そのためには教師の適切な支援が不可欠となってきます。

(資 - 1) はその一例です。この活動カードによって子どもたちは、前時の学習活動を思い起こし、これから展開していく追究活動を意識し自分自身の課題と具体的に調べる内容を明らかにします。友だちと互いに交流したり、グループで話し合ったりしながら進め、「何を自分の課題とするのか」そして「その課題解決を図っていくためにどんなことをすればいいのか」など考えていきます。思いつきの課題設定ではなく、子どもたちの思いや願い、疑問、興味・関心を重視した課題づくりにつなげていきます。

▶ **課題に対する疑問や問題を深め、広げ、解決を図る活動**

自分の課題が決まると次に、どのような方法で、どのような計画に沿って追究していくかを考えることが大切です。この活動では、追究する方法や調査日程、調査内容などについて明らかにするための「活動カード」を用います。

本単元では、(資 - 2) を手がかりに、共通する課題をもつ子どもたち同士が話し合い、市役所や公民館、図書館、教育センター、保健所、リサイクルセンター、工場など地域の施設に出かけての聞き取り調査やインタビュー、見学、実験そして書籍による調べ学習など自分たちなりの方法を見出し、計画を立てます。

このような活動カードの活用によって、子どもたちは長時間取り組むことになる追究活動について見通しをもったり振り返ったりすることができ、学習活動の改善・深化を図っていきます。

また、教師は追究方法を見出しにくい子どもたちに対しては、様々な学習環境マップなどを用意し、適切な支援を行っていくことが重要です。

環境調査隊が行く① 名前

自分たちで状況を調査してアブリオメで写真にとったり、危険のビデオを見たりしてきました。いよいよ、自分でもっと本格的に調査開始です。自分は何なことを調べていくか考えてみましょう。

自分のテーマ **エネルギーについて**

自分の住む共同生活の	ゴミ	マイクンについて
	遊歩道	エネルギーについて
	大気のごみ	エネルギーについて
	川の上ごみ	自然の木の生き物について
	園芸	その他いろいろ...

そのテーマのどんなことを調べたいかと思いますが

人間はどのくらいエネルギーを使っているか。

自分の調査を安心して、しっかり調べて、いよいよ、このテーマで、それぞれの環境調査隊を開始します。どんな、すばらしい調査がくりひろげられるでしょうか、とっても楽しみです。

資 - 1 活動カード

環境調査隊が行く② 名前

調査隊番号 () 国 番号

●調査テーマ **エネルギーと環境**

●調査方法 (何をどのようにして、どこで調べるか)

市役所/市庁舎で質問する
市の又は旧国庁の電気の使われ方
2-3年間にどれだけの電力を使っているか?
今までのエネルギーの消費の状況
エネルギーの消費の状況

●学習書、本等の数

メモ 記具

●調査日程表 (4回時間をもって、調査に行きます)

①	12月(火)	市役所でLEDのLEDを開く(借入)
②	12月(水)	節約のし方を調べる(1日)
③	12月(木)	節約のし方を調べる(1日)
④	12月(金)	今まで調べてきたLEDの消費量

資 - 2 活動カード

子どもたちが学習の場となる施設や人との連絡・調整を自ら行うことは、問題を解決していくための重要な活動です。この活動を支えるために教師は、事前にあるいは子どもたちの様子を見ながら各機関と連携し、綿密な計画や打ち合わせを行い、追究活動がスムーズに進むように支援します。また、連絡・調整がうまく進まなかったときは、スムーズに進んだグループや友だちの例から学ばせ、自分たちの活動を振り返らせ解決していくようにします。

また、教師は（資 - 3）のように、子どもたちの課題解決にかかわる情報を一覧表にまとめておくことが大切です。これはそれぞれの課題やともに活動するメンバー、活動内容、行動予定、行き先、準備物などを示しています。こうすることによって教師は、子どもたちの活動について事前にきっちりと把握し、今後の活動の広がりなどに見通しをもつことができ、支援の手がかりにすることができます。更に、活動内容や方法などの変更があったときはその経過や変容を知ることができます。

5年 環境調査隊		1月15日の行動集約				
テーマ	原簿	メンバー	15日の活動	行き先	準備物	
1 川の汚れ	M	I, S, T, K	きまこみ調査 川の水を掬ち見る	地下道		
2 水の中の 生き物	N	K, Y, H	水きくんでみて、よごれかたを調べる。 【上流、中流、下流の3か所】	小泉川	水質検査の道具 （前日にまで調べる）	
3 エネルギーと 資源	T	N, M	太陽電池を使って電球を点灯する。 その家にインタビューする（質問あり）	友岡4丁目付近		
4 リサイクル	I	S, K, A, K, H	リサイクルできそうなものを使って、リサイ クル作品を作る（1/2時間）	学校		
5 大気よごれ	O	T, O	空気にかんする本をさがす。 排気のない車の本をさがす。	図書館		
6 酸性雨	S	K, S, H M, T	花に液をあてる。（8か所で取っておいた物 酸性の本液液でもためし、くらべる。 公園にけきの設置）	学校 （理科室）	ペット 酸性の本液液	
7 ボイ捨て	H	U, Y, Y, M	ボイ捨ての遺跡と数を数える	小泉川、一文橋付近		
8 森や木や草 について	N	H, Y, O M	イシゴトイシゴト、森のなかの生き物を探る （観察日記）	西町草		
9 樹木の状態で 木の性質	S	T, N, H M	木がくちているか、おれてるか、剥がれかなど 木の状態を調べる（2回日）	〇〇公園		
10 自然の鳥	N	H, T, H	鳥の写真を撮る。	小泉川		
11 ボイ捨てと 分別収集	K	Y, M, I M	川に行き、どれだけゴミが捨てられているか調 べる。	小泉川		
12 直営の中に 生き物	U	Y, O, K T	ホタルの保護について、教えてもらう。 （質問用紙あり）	ホタルを保護している ところ		
13 リサイクルの 方法	S	N, A, E	トレーなど一日どれくらい使えるかなど、質問 する。	アイス屋		
14 アルミ缶の リサイクル	T	U, K, M T, N	空き缶がどれくらい捨てられているか、それで何 ができるか、アルミ缶をみる。	学校の周り		

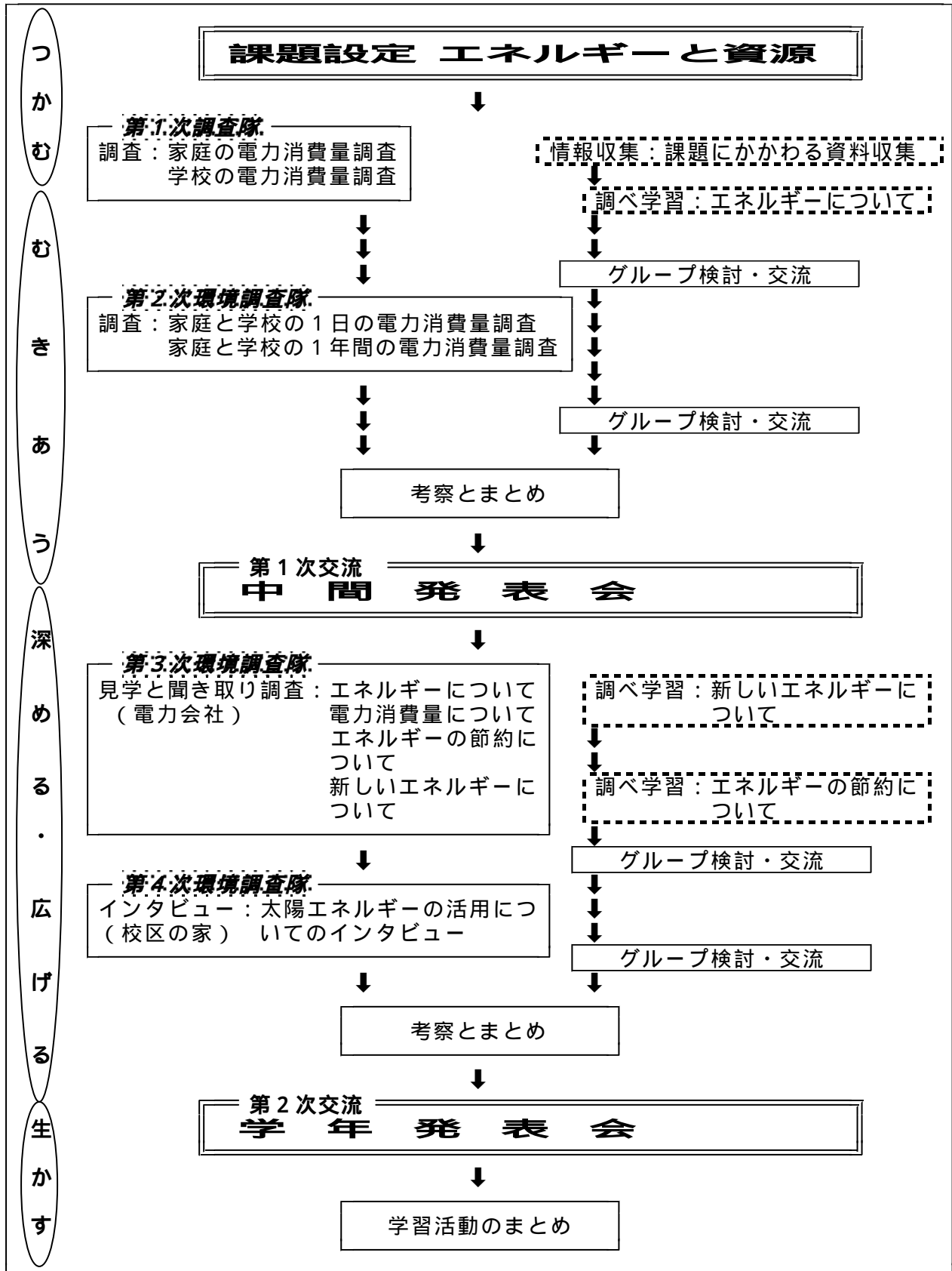
資 - 3 追究活動の計画一覧表

いよいよ自分自身の課題を共有するグループなどで追究を進めていきます。

この追究活動では事前の計画に沿って活動を行い、試行錯誤しながら自分なりのアプローチで課題解決を図っていきます。この追究活動では一つの方法ではなく、様々な視点から追究方法を見出し課題解決を図っていくことが大切です。そのためにはグループであるいは全体の場で、子どもたち同士で活動内容や方法について十分話し合ったり、情報交換をしたりします。これらの活動によって、子どもたちは個々の活動を互いに共有し、課題意識をより高めたり、違った視点から解決する方法を獲得したりします。また、課題解決を図るために今、何を行っているのか確認し合い、今後何を行っていくかなければならないのか見通しをもつなど活動を見失わないようにすることができます。

（資 - 4）は、（資 - 3）の 3グループの「エネルギーと資源」を課題とした子どもたち

の探究活動をたどったものです。子どもたちが家庭や学校の電力消費量調査や電力会社での聞き取り調査、調べ学習など様々な方法で検討を加えながら、追究活動を深化させ、課題解決を図っている様子が分かります。



資 - 4 探究活動の展開例

▶ **学んだことを生かす活動**

追究学習が進むにつれ、(資-5)のように身近な環境を守ろうとする子どもたちの願いや思いが出てきます。こうした願いを基に、環境の視点から自分の生活や生き方を見つめ直します。地域のよさに気づきながら環境保全のためにどのような生活を送り、実践的な行動をとるべきかといった積極的な態度の育成を目指します。これは学んだこと生かし地域に返す活動につながっていくものです。

本単元では、中間発表会や学年発表会で身近な環境についての自分たちの学習の成果を報告し、全校児童や保護者の環境に対する意識を高めました。

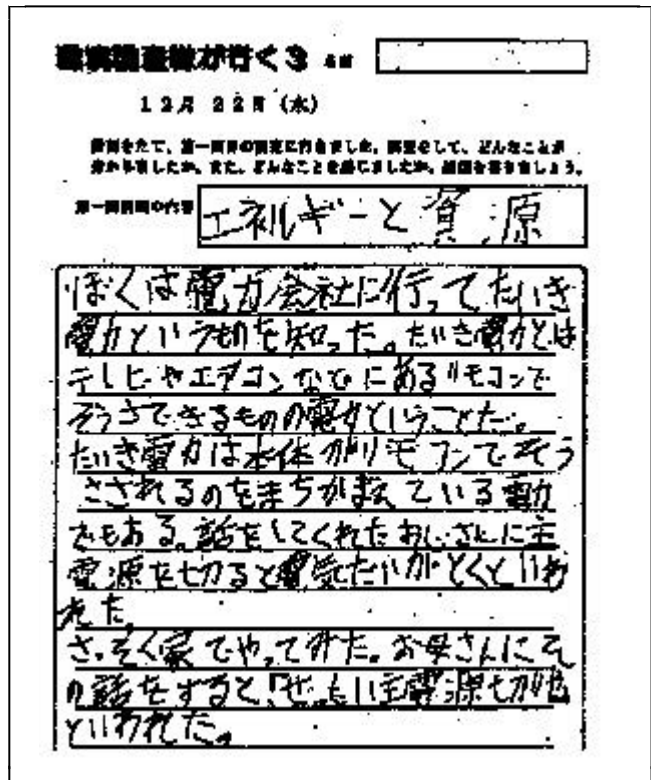
更に、この学習を生かし、全校リサイクル活動など子どもたちの主体的な活動に結び付けていくことができます。

このように「総合的な学習の時間」では、体験的な学習と問題解決的な学習の連続した広がりのある活動場面を工夫・開発し、そこでの活動を基盤として、主体的な課題解決を図り、自己の生き方と結び付け実生活へ生かしていくようにします。

(2) **地域の人材や施設の活用**

子どもたちは追究活動を行うに当たり、これまでの生活経験を軸に「どこで調べようか」「どのように調べようか」などと調べる方法や場所を探っていきます。学校や家庭を取り込んだ地域社会が学びの場や方法となり、地域の人材や施設から課題解決の方法を見い出していくこととなります。

本単元ではまず、学校が地域に人材登録をお願いしました。(資-6)がその呼びかけ文です。様々な分野における支援者を求めます。そして協力していただける方々について整理し、地域の人材一覧表を作成します。今回の調査活動もこうした地域から発掘した優れた人材を活用することによ



資 - 5 子どもの記録

小学校保護者様
地域の皆様

平成 年 月 日
小学校

校長

小学校からのお願い
地域の人がみんなが先生

小学校に人材登録をお願いできませんか？

人材登録していただく方は、子どもたちの学習活動や
学習の中で大変な助けになっていただきたいと思います。

こんなことなら教えてください

子どもの成長の早付けになることなら、何でも結構なのですが...
(例) 手作り・専攻作り(おじいさんやおばあさんお願いでいいませんか)
工作(どんなものでも)・デザイン・絵画
料理・手芸・編織
パノエン
読み聞かせ
手話・点字
図画・写真
学習遊び
演劇・ミュージカル
いろいろな形での支援
卓球・サッカーなどのスポーツ
校区・長岡京市の音のこと
歌中の歌
外国の歌
植物探検
昆虫探検

先生たちも子どもたちも、お父さんやお母さん、地域の皆さんに学校に
来ていただいて教えていただけるのを待っています。
ぜひ、登録をお願いします。

夢のある学校作りへあなたの参加をお待ちしています。
(よ、やってみよう)という方は、小学校までお電話ください。
または、下の紙を学校へご郵送ください。

〒 〇〇〇〇 〇〇〇

こんなことなら教えてください

人材登録します お名前 _____
地区名 _____
連絡先(TEL) _____

方をお借りできること

資 - 6 地域の人材登録の呼びかけ文

り、大変効果的に学習活動を進めることができました。

また、地域の施設や環境を活用するための体制づくりも必要です。

(資 - 7) は自然観察マップです。これにより、どこでどんな観察ができるのかわかります。他に地域の公園や店、スーパーマーケット、田畑、果樹園、病院、道路、鉄道等を示した多種類のマップを作ることができます。

また、視点を変えて作ることによって工夫あるマップができます。例えば「仕事マップ」を作るとき、「人に接する仕事」「物を作る仕事」「自然にかかわる仕事」などと分類すると特色あるものができるようになります。

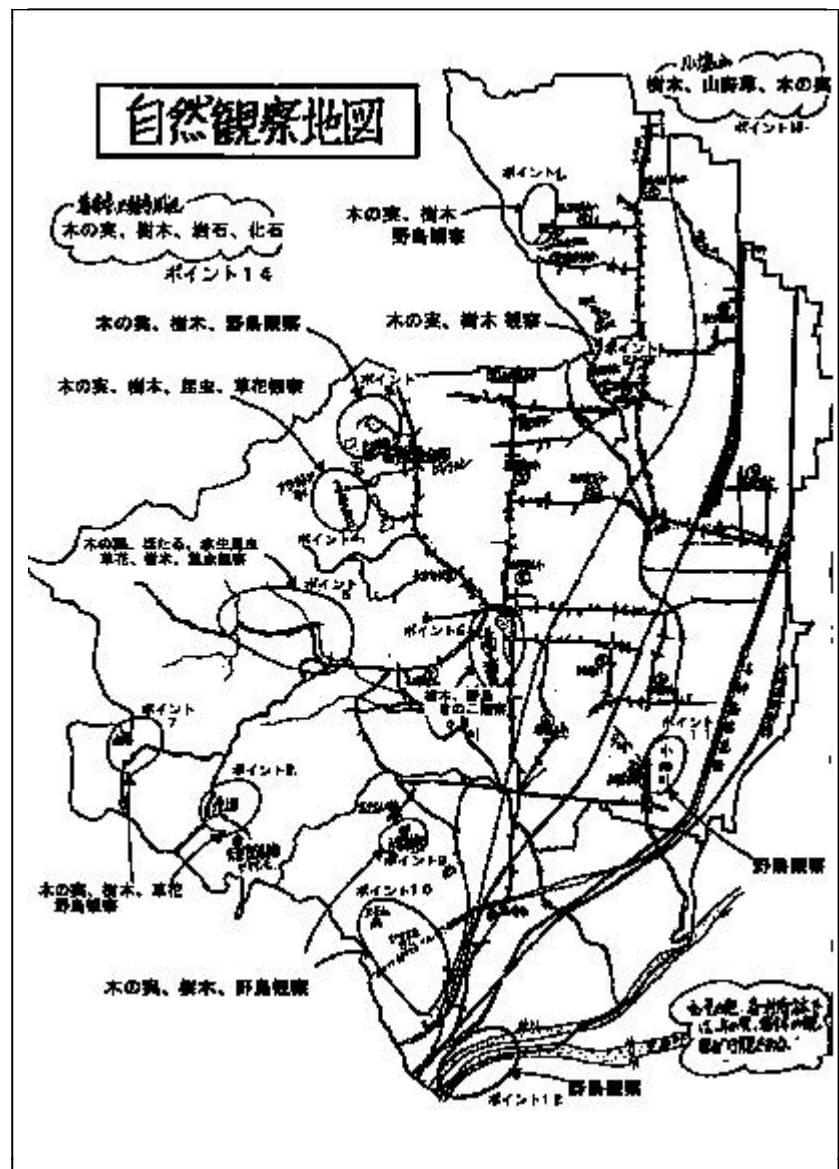
子どもたちは学習活動の目的や内容に応じてこれらを活用し、「地域のどこに何があるのか」「どこでどんなことを調べることができるのか」

などを把握し、活動に見通しをもち、学習のねらいや学習内容をより具体化することができます。課題を解決するための重要な手がかりになるわけです。また危険防止においても有効に働きます。

(3) 表現活動の重視

「総合的な学習の時間」では、「表現力の育成」や「多様な表現方法の習得」を目指し、表現活動を積極的に取り入れていきます。本単元においては、特に、次のような点に留意し、表現活動を重視します。

- 多様な表現方法を受容すること
- 目的意識や相手意識を大切にすること
- じっくり、ゆったりと取り組むことができるようにすること



資 - 7 自然観察マップ

中間発表会や学年発表会では、子どもたちの思いや願い、考えを重視しながらも誰に、何を、どのように伝えることが適切なのか、目的や相手を意識させ表現活動を組み立てていきます。子どもたちとともに発表会の日時や内容について計画し、相手に分かりやすい内容にするためにはどんな工夫が必要なのか、また、どんな表現方法がよいのかを考えさせるようにします。

子どもたちの感動や驚き、調べたことなどを言葉や動き、色、形、音などでの多様な表現方法を用いて発表し、互いに交流し合うことができるゆったりとした時間と場を設定します。

本單元における学年発表会では、これを全校集会に位置付け、自分たちが見出した身近な環境についての調査結果や環境保全の視点からの自分たちの責任や任務などについて様々な表現方法を用いて発表し、全校の子どもたちに発信しました。

試験管に入れた川の水と水道水を実際に比べながら水の汚れについての調査結果を報告したり、空き缶の処理の仕方を全校児童に実演し、分別収集の協力を求めたりします。また、学習の足跡を劇化して演じたり、ニュースキャスターやコメンテーターなどになって実物投影機やパソコン、OHP等様々な機器を活用して分かりやすく報告したり、シンポジウム形式で議論したりもします。

また今後、各学校ではコンピュータが導入され、その活用がますます盛んになってきます。こうした状況の下、プレゼンテーションソフトを利用した発表などコンピュータによる効果的な表現方法が可能となります。

(資 - 8) のように自分たちの学習したまとめを自校のホームページに掲載するなど、情報発信の手段としてインターネットを活用することも考えられます。

その際、各学年のページを構成するに当たっては、できるだけ子どもたちの意見を取り入

れたり、また作成できる部分は子どもたち自身に作成させるなど、子どもたちが主体的に情報の発信にかかわるようにしたいものです。



資 - 8 ホームページの一画面

10 評価の工夫

「総合的な学習の時間」では、学習活動の過程を重視して、子どもたちの意欲や態度、よい点、進歩の状況を踏まえ適切に評価することが重要です。

子どもたちの学習の結果を評価するのではなく、日常的な学習活動の過程を評価し振り返らせることによって、子どもたちの主体的、創造的に取り組む態度を育成し、学習活動を自分でコントロールする能力を育成していきます。こうした視点から本單元では、自己評価を大切に

します。

(資 - 9) は、本単元で活用した自己評価カードです。学習の目当てとそれにつながる自分自身の目当てを明確にし、学習過程での自分自身の気づきを振り返らせるとともに、友だちの気づきから学びます。

教師は、これらから子どもたちの多様な活動場面における考えや行動を知り、効果的な支援の手がかりにすることができます。また、子どもたちにとっては次のような点において有効にはたらきます。

ねらいを明確にして、どんな方法で何を行っているのか常に振り返ることができる。

課題解決に向け、活動内容と方法が適切であるかどうか吟味することができる。

課題解決に向け、活動内容と方法に見通しをもつことができる。

学習意欲を高め、より主体的に取り組むことができる。

わくわくタイム

学習の目当て

今日の自分の目当て

さあ、始めよう！

自分の気づき

友だちの学び

次回 したいこと

次回 頑張るもの

資 - 9 自己評価カード

自己評価カードは他の作品や作文、写真、観察メモ等とともに個別のファイル(ポートフォリオ)に収集・保管し、子どもたちがいつでもこれらの情報を取り出し、学習過程をフィードバックできるようにしておきます。これによっていつでも自分の学習活動について振り返り、学習の歩みを見極め、次の学習活動について見通しをもつことができます。

また、学習を終えた時点で、「振り返りカード」でこれまでの学習を振り返らせます。

次ページの(資 - 10)はその一例です。このカードでは具体的な視点と達成度を示し、子どもたちはこれまでの学習を振り返り自己評価します。この際の「視点」を考えると、単元での目当てや育てたい力と関連付け、この「総合的な学習の時間」のねらいが子どもたちにどれだけ身に付いたか、子どもたちがどのように変容しているかといったことを大切にします。

そして相互評価も大切にします。「総合的な学習の時間」での学習活動は、自己の学びを友だちとかかわり合い学び合っていく中で深化し、広げていきます。こうした視点から、相互評価を重視し、子どもたち同士がよい点や気付いたこと、思ったこと、改善したほうがよい点などを交流し、互いに学び合います。

また、「総合的な学習の時間」における評価は、教師や子どもたち同士による評価に加えて、保護者のコメントや授業に協力してくれた学校外の人々の感想を組み込んだりするなど、評価を通して子どもたちに様々な人々から学ぶ機会を与えることが大切です。

年 級 名 姓

「総合的な学習の時間」の学習をより充実させよう。みなさんは自分たちで問題を見つけ、いろいろな方法で調べ、たくさん
のことを学びました。これまでの学習をよく思い出して、あてはまるところに○をし、[]には自分の思いを書きま
しょう。ただし書きはとらなければ書いてください。

	よく できた	できた	あまり できなかった	できな かった
□ 学習の進め方 *自分たちが進んで学習したり活動したりできた。 *友達も協力して活動したりできた。 *最後までねばり強く活動できた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□ 問題を解決する力 *自分たちが問題を見つけたりつくったりできた。 *自分たちが進んで問題を見つけたいと進んで問題を解決することにできた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□ 問題を解決する力 *問題を解決するために計画を立てることができた。 *問題を解決するための方法を見つけたり、うまくいかなかったとき新しい方法を工夫で調べたり、人に聞いたり、見学したりと様々な方法で進んでいった。 *友達と話し合いながら進んでいった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□ 調べよう力 *調べたいことを調べたことと進んで調べたこととを区別することができた。 *自分たちの調べたいことと進んで調べたこととを区別することができた。 *調べたいことと進んで調べたこととを区別することができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□ 発表する力 *発表したいことを発表することができた。 *発表したいことを発表することができた。 *発表したいことを発表することができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

この学習で特にがんばったこと

資 - 10 振り返りカード

11 まとめ

この身近な環境に主眼を置いて学習を進めた「総合的な学習の時間」の実践例では、そのねらいを達成するために様々な学習活動の工夫を図りました。

まず、この単元で育てたい力を明確にし、単元構想ではこれを達成するために教科や道徳、特別活動との関連を図りながら活動場面の工夫・開発を行い、学習活動の計画を立てていきました。単に、課題を設定し、調べ学習を行い、発表していくといった画一的な活動過程ではなく、見学や調査、聞き取り調査、実験など体験的な学習を取り入れながら「つかむ」「むきあう」「深める・広げる」「生かす」と学習過程を深化させていきました。特に、その過程において、話し合いや情報交換をする場面、第一次交流としての中間発表会、第二次交流としての学年発表会を重視し、自分たちの活動の成果を発表するとともにこれまでの活動を振り返らせ、見直す場面を大切にしました。これにより、子どもたちは課題意識をより高め、違った視点から学習方法を獲得し、課題解決を図っていくことができました。

また、子どもたちの主体的な活動をより可能にするために、「活動カード」を活用しました。探究活動を進めるに当たり、活動日時や場所、学習方法、活動内容、準備物などを明らかにし、具現化に向け見通しをもった取組にするとともに、学習活動の改善につなげていけるように工夫しました。

評価にかかわっては、振り返りカードや自己評価カードを活用し自己評価や相互評価を大切にしました。子どもたちの学習活動の過程を重視し、指導と評価の一体化を図り支援の手がかりにするとともに、子どもたちが自分自身の活動を振り返り、課題解決のための学習方法や活

動内容を工夫・改善することを重視しました。

このようにして進めた学習を通して、子どもたちは自分たちが生活する場を環境という視点から実際に歩き、様々な人々や事物と出会い、触れ合う中で、身近な環境に興味・関心を高めるとともに地域の環境に対する見方を変えていきました。また、自分なりの方法を見つけ、試行錯誤しながら課題解決を図り、環境とともに生きる自分をも見い出そうとしています。

このように各学校では「総合的な学習の時間」において、育てたい力を明確化しその実現を目指し、地域社会の学習環境を最大限に生かし連携し合いながら常に子どもたちの目線に立った特色ある学習活動を創り上げていくことが大切です。